

厚生労働省数理職に興味をお持ちの皆様へ

就職活動の頃を振り返ってみると、就職浪人をして、将来やりたい事などはっきりとしたイメージもなく、不安な気持ちを抱えながら数理職の官庁訪問に訪れました。どんな話をしたのか、今となってはあまり記憶がありませんが、先輩職員と面接して、役人らしからぬ(?) 穏やかな雰囲気と、国民の生活の安心のために数理的知識を活かすという前向きで誠実な志にふれ、何だかほっとした気持ちになったのを覚えています。

結果、ご縁があって数理職の一員として迎えていただきましたが、果たして自分に務まるのだろうかと悩みながら職業人生をスタートさせました。入省から5年近く経った今も、その思いは消えていませんが、その時々与えられた仕事に一つずつ向き合っていくことで、何とかやって来られたのかなと思います。

具体的な仕事の話をする、現在は統計調査の企画立案や結果の分析等の業務を担当しています。非常に大規模な調査で、行政のみでなく研究者や企業にもよく利用されています。

現在の主な任務は、担当する統計調査が、社会情勢の変化に対応するべく、調査事項等の見直しを行うことです。統計は継続性が非常に重視されるものであり、たとえば方向性は正しくても、調査を変更すれば時系列での比較が困難になることがあるなど、見直しには慎重さが求められます。

一方で、世の中に求められるニーズに対応できるよう、時代に応じた見直しを的確に行っていくことも重要です。様々な要素を考慮しながら、新たな調査の姿を思い描くのは、大変なこともあります、とてもわくわくするものです。

最近、政策立案を行う上で統計データが重視されるようになっています。地道な業務はあまり注目されるものではないかもしれませんが、政策決定を支える「縁の下

の力持ち」の立場ですが、社会の基礎となる統計を作成することは、誇りを持って取り組める仕事だと感じています。

役所の仕事では、ときに深夜に及ぶ残業や、多種の案件が突発的に入ってくるなど、ばたばたすることもありますし、思うように仕事が進まず、焦って行き詰まってしまうこともあります。「静かに行く者は健やかにゆく。健やかにゆく者は遠くまでゆく。」就職時に先輩から贈られた言葉ですが、自分の能力を最大限に活かし良い仕事をするには、心身ともに健康でないといけないと身にしみて感じます。公務員、特に総合職では色々な人の調整をしたり、部下の指導をしたり等他の人と関わって働くという要素が多いので、自分も周りの人も健やかに楽しく仕事ができるよう、大変なときも努めて冷静に対処できるようにしたいと思っています。(まだまだ成長途上です。)

就職活動をする中では、ときに自分を見失ってしまうこともあるかもしれませんが、一步一步進んでいけば何かしら道は開けるものではないかと思っています。ありきたりな言葉ではありますが、これまでの短い人生を振り返ってみても、そのとおりでいいと思います。もっとも、渦中にいるときはなかなか冷静になれないものですが、奇遇にもこのパンフレットを手にとっていたいただいた方は、社会のために働きたいという意思をお持ちだと思いますので、たとえ数理職でなくても、自分なりの道を見つけていただくことを願っています。

政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）

小梶 美幸（係長級）

経歴

労働基準局、政策統括官（統計・情報政策、政策評価担当）等を経て現職